

我々が良寛を生き生きと感じられるとすれば、それは我々と、良寛とにある階級社会にもがく姿の共通性である。

良寛の書きぶりは痩せこけてはいますが、ひとつの点画に膨大な表現と意味がこめられ、一点一画が豊かな表情を示しています。

石川九楊 講演会

「良寛の書を語る」

二〇二二年三月一七日(木) 一四時—一五時半

会場 新潟市民プラザ(新潟市中央区西堀通六八六六 NEXT1 六階)

参加料 一五〇〇円 / 定員 一〇〇名

申し込み 砂丘館 / 申し込み受付開始 二月九日(水)

電話 ファックス 0252222676 / メール yoyaku@bz04.plala.or.jp

*ファックス、メールの場合はお名前、人数、連絡先(電話番号)を併記してください。

*参加の際はマスクの常時着用をお願いします。当日は検温を実施させていただきます。

主催 認定特定非営利活動法人 新潟絵屋

共催 新潟絵屋・新潟ビルサービス 特定共同企業体(砂丘館指定管理者)

協賛 八海醸造株式会社、名古屋画廊・雪国あられ株式会社、NSGグループ、

株式会社イシカワ、株式会社新潟ビルサービス、丸屋本店、株式会社藤田金属、

新潟・市民映画館 シネ・ウインド、郷土の文化に親しむ会

協力 NSG美術館

助成 朝日新聞文化財団、花王芸術・科学財団

石川九楊(いしかわ きゅうよう)

書家・評論家。京都精華大学教授・同文学
文明研究所所長を経て現在、同大学名誉
教授。昭和二〇(一九四五年)、福井県今立
町に生まれ武生市(現・越前市)で育つ。京
都大学法学部に入學。進学にあたり、書
師より九頭竜川にちなみ「九楊」の名を与
えられる。昭和四二(一九六七)年、京都大
学卒業後、三洋化成株式会社(京都市)入
社。同五三(一九七八)年、十一年間の会社
員生活に終止符を打ち書家として独立。
以来、作品制作と執筆活動に専念、いずれ
の分野でも最前線の世界大の表現と論考
を続け、現在まで書作品一〇〇〇点、著作
一〇〇冊以上を世に送り出した。主な展
覧会に「書だ！石川九楊展」(上野の森美
術館 二〇一七年)「石川九楊展」(古川美
術館・為三郎記念館 二〇一九年)「ド
ロイキングの可能性」(東京都現代美術館
二〇二〇年)「石川九楊の世界 書とい
う文学への旅」(福井県ふるさと文学館
二〇二〇—二二年)など

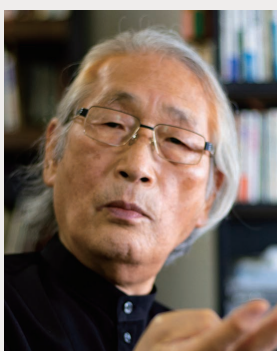


Photo: Toru Takahashi

主な著作

『書の終焉』

一九九〇年 同朋舎出版 サントリイ学芸賞

『筆蝕の構造 書くことの現象学』

一九九二年 筑摩書房

『日本書史』

二〇〇二年 名古屋大学出版会 毎日出版文化賞

『近代書史』

二〇〇九年 名古屋大学出版会 大佛次郎賞

『石川九楊著作集』全十二巻

二〇一六—一七年 ミネルヴァ書房

『河東碧梧桐—表現の永続革命—』

二〇一九年 文藝春秋

『石川九楊自伝図録』

二〇一九年 左右社

『俳句の臨界—碧梧桐一〇九句選—』

二〇二二年 二月 左右社(予定)

石川九楊展(観覧無料)

砂丘館

新潟市中央区西大畑町五二八二

二〇二二年

二月一六日(水)—三月二七日(日)

九時—一九時(三月は二時まで)

休館日 月曜日(三月二日は開館)

二月二四日、三月二日

主催 認定特定非営利活動法人 新潟絵屋

共催 新潟絵屋 新潟ビルサービス
特定共同企業体(砂丘館指定管理者)

新潟絵屋

新潟市中央区上大川前通一〇一八六四

二〇二二年

二月一六日(水)—二七日(日)

三月一六日(水)—二九日(火)

二時—一八時(各最終日は一七時まで)

主催 認定特定非営利活動法人 新潟絵屋

